ガタガタ通信

No.46
2011・春の号
発　行
NPO法人
水辺に遊ぶ会
MIZUBE NI ASOBU KAI

大分県中津市中央町2-8-35
mizube1999@yahoo.co.jp

科学の力は万能じゃない。過信したらいけない。自然を恐れ敬う気持ちとともに、長い時間人は生きてきたんじゃないのかな。

▼3月11日に起きた東日本大震災、大変な被害が出ています。亡くなられた方のご冥福をお祈りしますとともに被災された方々へ謹んでお見舞い申し上げます。

▼震災直後に釜石市にある水産加工業者の方から私アッシーの職場の子どもたちにメッセージをいただいたので少しご紹介します。私の職場は中学校です。そこには当然給食というものがあるわけです。その給食に商品を納入されている業者のT商店さんからです。

「T商店は岩手県釜石市に本社はあります。工場は大槌町です。サケ、サンマ、サバ、イワシやその他の魚で缶詰や学校給食用の冷凍食品を製造しております。本社も工場も三陸海岸に面しており、海岸線から100mも離れていません。本社はオフィスビルの2階にありますが、おそらく津波にさらわれていて、建物が残っているだけだと思います。工場は津波に跡形もなく流されたようです。幸い作業中だった従業員はみな一緒に避難できました。（中略）

この三陸海岸は昔から津波の被害に遭ってきました。明治三陸地震津波は被害者2万人、昭和三陸地震津波は3千人の被害者、1960年チリ地震でも津波により142名の犠牲者が出ました。三陸海岸は津波災害の多い地域なのです。なぜ人々は災害の多い地域で生活を続けるのでしょうか？恐らく今回に地震津波被害を受けても人々は家を建て、道路を造り、町を復興させるでしょう。（中略）

「食べること、生きること」に関わる仕事に誇りを持って働いていた人や職場や住宅が一瞬にして無くなりました。私たち□商店の従業員も食品製造を行い「食べること」「生きること」に貢献したいと考え、今まで仕事をしてきました。私は、人間が生きるということは、未来を造ることだと考えています。学校で皆さんが食べている給食も「未来を造るためのエネルギー」になると思っています。私は学校給食に関わる食品を製造することは子どもたちを通して「未来」を造っていると考えています。だからこそ三陸の人々は危険な仕事やきつい仕事に誇りとやりがいを持つことができるのだと思います。それは、魚、肉、野菜、米、水、すべての食品を製造する人々はみな同じだと思います。（略）」

▼食べることは生きること、そして、それは未来につながっていくということ。豊かな海の幸を生み出す反面、ともすれば人間に牙をむく厳しい自然とともに生きてきた人々の誇りと故郷の歴史。水辺に遊ぶ会がこれまでの活動の中で感じてきたこととつながっていて、共感を覚えました。震災から2ヶ月、収束に向かわない原発や瓦礫と化した町、いまだに行方不明の方々…。被災地の抱える苦悩を考えると、自分たちの無力さに歯痒い思いですが、一日も早い復興を願うばかりです。私たちがくらす九州は被災地から遠く離れていますが、海を通してしっかりとつながっています。中津干潟同様に豊かな海の幸を生み出す三陸の海に漁師さんたちの活気が戻る日まで、自分たちのできることで力一杯応援したいと思います。

■活動報告(2011.1.1～2011.4.16)

1.12 環境省ヒアリング
1.13･14 ズグロカモメ取材
1.20「知ろう！大分の環境」制作会議
1.22 ７８９取材
1.25 ごみゼロおおいた県民会議
1.26 中津市水質調査委員会
2. 1 北部九州河川利用協会助成事業ヒアリング
2.11 ズグロカモメと冬鳥観察会
2.17 中津市景観審議会
2.18 中津干潟保全の会
大分県道州制研究会
2.20 ササヒビ用竹伐採
2.21 中津市環境審議会
2.24 沖代小学校４年干潟学ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰ
2.27 海苔漉き体験
大分合同新聞取材
3.10 ＦＭなかつ出演
3.12 金谷地区高齢者サロン講演
ヒアリング調査
3.13 大新田ビーチクリーン
※津波注意報発令のため中止
ササヒビ用竹伐採
3.18 大分県森林づくり会議
3.19･20 大阪南港グループ･ふくおか湿地保全研究会とともに干潟観察･交流会
3.22 山国川実践者会議
3.23 環境生態系保全事業モニタリング報告会
3.24 中津港環境管理懇談会
3.28 環境省九州地方事務所視察
4. 5 舞手川河口視察
4.12 大分県立中津工科短大新入生環境学習講義・大新田海岸清掃
4.16 ササヒビ用竹運搬

★イオン三光ＳＣイエローレシートキャンペーン様より１０７００円のご寄付をいただきました。ご支援、ありがとうございました。
★レシートを入れてくださった皆様にも御礼申し上げます。

★２０１１年前半の活動予定 伝言板

予定は変更になる可能性があります。
詳しくは次号ガタガタ通信やチラシ、ホームページでご確認ください。

5月１５日 干潟観察会　※同封のチラシを見てね
6月　４日 山国川を調べてみよう
6月２６日 大新田ビーチクリーン
7月２４日 山国川で魚捕り(予定)
7月３０日 夏休み干潟観察会（雨天時３１日開催）
8月２９日 アカテガニ産卵観察会
9月　４日 大新田ビーチクリーン

おしらせ　新しい漁業体験にチャレンジします!!夏をお楽しみに！！

おしらせ
参加者のみなさまのお声をうかがった結果、
ビーチクリーンの時間を６月より変更する予定です。
変更後は毎回朝９時開始となります。

おねがい　会費のご納入をお願いいたします。
４月より新しい期がはじまりました。当会の活動を支えていただくため今年度も会費のご納入をお願い申し上げます。通信と一緒にお送りしております振込用紙をご利用ください。よろしくお願いいたします。

おわび　３月の大新田ビーチクリーンは、津波注意報発令のため中止いたしました。
中止の事前連絡をしてくださいました企業のご担当者様、会場まで足をお運びいただいたみなさまに、心よりお詫び申し上げます。
６月の海岸清掃へのご協力、よろしくお願いいたします。

ボランティアスタッフを募集しています。

日頃体力をもてあましてるので干潟調査のかせいならしてやってもいいぞと思う方、力はないけど調査結果をパソコンに入力するならできるわという方、子ども好きだから行事でお世話してみたいけど勇気がないのという方、弁当ばっか食べててかわいそうだからおにぎりでもにぎってやるかと思ってる方、ＨＰ更新してないじゃんと思っている方、ガタガタ通信半分に折るならできるぞという方、りじちょ大変そうなので事務仕事手伝ってやろうかという方、なんにもできないけど元気なのがとりえなのという方、是非！

昔の海の写真募集中

ササヒビ･浜遠足･貝掘りなど昔の海の写真を探しています

てんやわんや

■ミドリシャミセンガイや～い。なんで私だけ掘れない？くやしいくやしい。今年の干潟のテーマはミドリちゃんを探せ！なのだ　（う）

■「鉄腕アトム」は絵空事。目をさますんだ日本人。私は、緑の戦士「仮面ライダー」が好きだ。　（よ）

ホームページ営業中！ 遊びに来てね!!

http://www.max.hi-ho.ne.jp/y-ashikaga/

水辺に遊ぶ会MUSEUM

水辺に遊ぶ会ミュージアムは「建物のない博物館です」

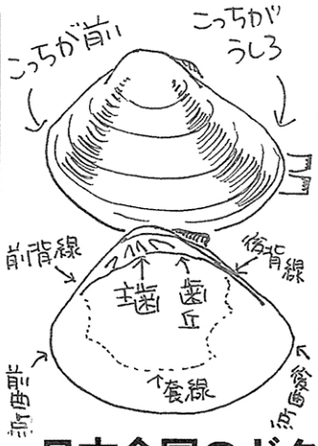
http://www.geocities.jp/kabunykun/index.html

メールはこちらへ→mizube1999@yahoo.co.jp

春ランマン。蛤御殿の夜はふけて 中津干潟のハマグリたちは どんな夢をみているのやら。

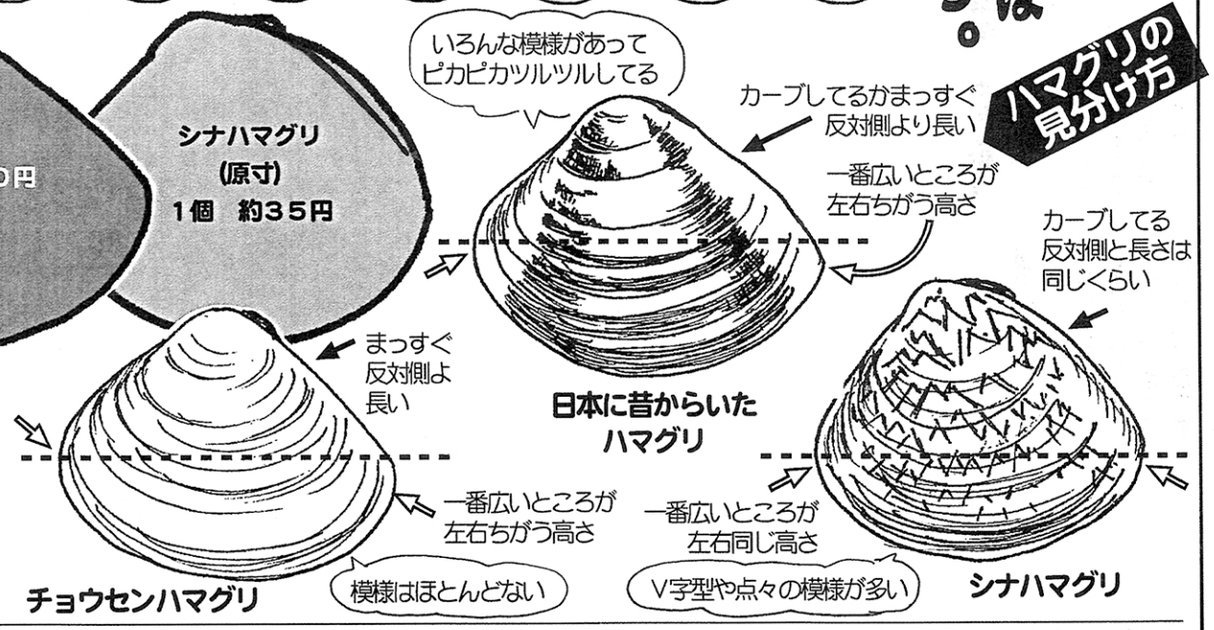
▼遠い昔、古代中津人は遠浅の干潟でハマグリをとってはムシャムシャと食べたり、むき身にして干して保存食にしていたらしい。なんでそげな昔んことがわかるかっていうと、市内の貝塚からハマグリの殻がザックザックと出て来るからなのだとか。昔のハマグリは、そりゃあ大きかったらしいから、さぞかし食べでがあっておいしかったに違いない。うらやましい限りだ。さてさて、そーんな中津干潟のハマグリだが、最近はあんまり見なくなっちゃった。いやいや、中津干潟だけでなく、日本の海でハマグリは少なくなってるらしい。

▼てなことで、Yセンセ率いる「日本全国おひな祭りハマグリ調べ」なるものに参加してみたのだ。え？何でおひな祭りかって？ ハマグリの貝殻は、大きさや形がよく似ていても、同じ貝じゃないと2枚がぴったりかみ合わない。だから「貝合せ」って遊びができるんだ。両方の結びつきが強いので、良い伴侶に巡り会えるという願掛け？から、結婚式とかひな祭りにハマグリのお吸い物を食べる風習が生まれたのだとか。だから、おひな祭りの前後は、お魚屋さんとかスーパーには、ハマグリがここそとばかり登場するのである。



日本全国のガタガタ会員さんが調べてくれました。みなさん、ありがとう！

調査店舗●15箇所　調査サンプル●23パック



蛤豆知識 その1
名前の由来①浜辺にあって栗と形が似ているから。名前の由来②昔は石ころをクリと呼んだらしい。浜にある石（クリ）だから。

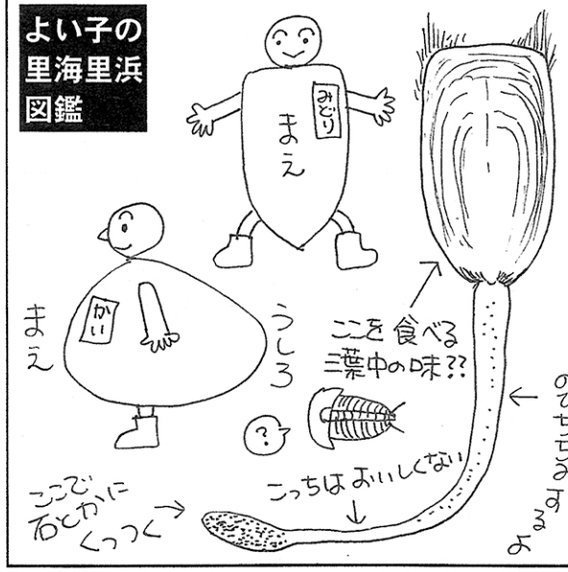
蛤豆知識 その2
ハマグリは同じ貝じゃないとぴったり合わないので、反対に食い違って合わないことを「ぐりはま」と江戸時代に言ったらしい。ぐりはま→ぐれはま→ぐれ、と言葉が変化して、「ぐれる」という言葉が誕生したのだとか。「ぐりはま」はちゃんと漢字があって蛤と書くのだとか。江戸のお人は粋だったんだねえ。

蛤豆知識 その3
妖怪クラム・モンスター。訳して妖怪シンキロー。漢字で書くと妖怪蜃気楼。中国の伝説では、海の沖に突然町が現れる怪異「蜃気楼」は、巨大なハマグリが吐きだした気の中から現れた楼閣なのだそうで。江戸時代の妖怪画集にも登場しているのだよ。

貝って呼ばれるけど貝じゃないんです。
ミドリシャミセンガイ

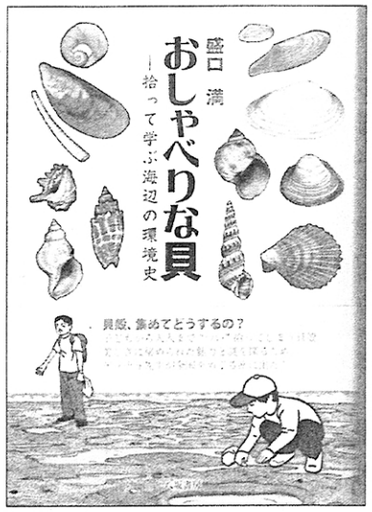
▼社会科の教科書で一度は聞いたことがあるE・モースさん。（大森貝塚を見つけた人だよ）実はこの方、このイキモノを研究するために来日したのだとか。貝にそっくりだけど、椀足類という別なイキモノなのだ。どこが違うかは図を見てね。有明海ではメカジャと呼ばれてお味噌汁とかにするんだと。中津干潟ではずいぶん前に1匹だけ捕まえたことがあったんだけど、この度、怪しい干潟調査隊が捕獲に成功。結構たくさんいるんじゃん！ってことも判明した。太古の時代から姿形が変わっていない「生きた化石」と呼ばれる彼ら。でも、実は太古の生物に似てるのは見かけだけで、ナカミはしっかりちゃっかり進化してるらしいよ。三葉虫の味がするらしいけど、誰か挑戦してみる？

よい子の里海里浜図鑑



ホンの紹介

げっちょセンセの新刊登場！



『おしゃべりな貝』盛口満
―拾って学ぶ海辺の環境史―

今や、昔からのままにある自然は、それだけで「奇跡」になってしまった。しかし、人間は「奇跡」を許さない。だから「奇跡」のように残る自然にも、危機が迫る。中津干潟も例外ではない。しかし、自然の「奇跡」を認識できる力を持っているのも、また人だ。

（本文より勝手に抜粋しちゃいましたよ）

▼たとえば、イチョウシラトリ。中津の海岸に行けばフツーにある貝殻で、家の中や車の中にいくつも転がってるんだけど、海で見つけると、つい拾っちゃう。貝殻は何故に我々を引きつけるのか…。去年の夏に中津干潟に遊びに来てくれたげっちょセンセが、そんな貝殻の魅力と謎に迫るべく、日本列島貝殻拾いの旅に出た。もっちろん我らが中津も出て来るよ。げっちょセンセ独特の切り口の貝の考察に、素敵なイラストがちりばめられた一冊です。

八坂書房　定価1900円(税込)